

(社)日本原子力学会
第41回倫理委員会議事要旨

日 時 H20.11.14(金)9:30~12:15
場 所 東京大学工学部8号館5階502室
出席者 北村、大場、班目、小川、小沢、鐘ヶ江、作田、杉本、谷、鳥飼、宮越、
矢野(12名)

配布資料

- 資料 41 - 1 第40回倫理委員会議事要旨(案)
- 資料 41 - 2 倫理規程に関する検討事項一覧
- 資料 41 - 3(1) 第11回「原子力に関する倫理研究会」開催のご案内
- (2) 日本原子力学会倫理規程の状況(班目)
- (3) 企業における倫理問題に対する取り組みの実態について(宮越)
- (4) 第11回「原子力に関する倫理研究会」「ケーススタディ」(作田)
- (5) 第11回「原子力に関する倫理研究会」アンケート
- 資料 41 - 4 2009年春の年会(3/23-25)企画セッション提案書
- 資料 41 - 5 原子力学会和文論文集投稿原稿
「電気事業者の不正・不適切行為とその再発防止策」構成(案)

議事

1. 資料 41 - 1 により前回議事要旨を確認した。編集委員会で検討中の論文投稿・査読に関する倫理指針を早く制定するよう、引き続き理事の委員を通じて理事会に働きかけることとした。
2. 作田委員より資料 41 - 3 を用いて第 11 回「原子力に関する倫理研究会」の説明があった。参加者数はほぼ予定通りであること、学生と社会人が一緒に討論するという企画の趣旨を活かして両者の差が出そうな事例を選んだこと、などが説明された。学生・社会人混合グループを4つ、学生だけのグループを1つ作ることとし、各グループにコーディネーターとしてつく委員を選任した。
3. 谷委員より資料 41 - 4 を用いて 2009 年春の年会企画セッションの内容紹介があった。会員組織からの報告については、担当してくださる組織は内定済みであるとの説明がなされた。
4. 鳥飼委員より資料 41 - 5 により電気事業者の不正・不適切行為とその再発防止策について原子力学会和文論文集に投稿することを検討中であることの紹介があった。
5. 班目幹事より資料 41 - 2 を用いて倫理規程改訂のアンケートによる検討の進捗状況について説明があった。今後の改訂の方向性について意見交換を行った。主な意見は次の通り。

- ・ 原子力の魅力的は「安定した職場」「社会への貢献」以外に何か？
- ・ 学生に魅力を伝える方法はあるか、ぼやくことで魅力的でないことばかり伝えていないか？
- ・ 疲労感・徒労感の背景はおかしな制度に縛られているために仕事の意義を見つけにくいことにあるのではないか？
- ・ 現場の声を制度等の改革に活かそうという試みは始まりつつあるが、それが知れわたっていないのは組織内コミュニケーションに問題があるのではないか？
- ・ 改善のスピードが遅いこと、自分の裁量範囲が狭いことが疲労感・徒労感を生んでいるのではないか？
- ・ 成果の「見える化」をもっと考えたらどうか？（表彰・資格制度の充実など）
- ・ 自衛戦争までは否定できないことから、倫理規程としては平和利用に限定することまでしか要求できないのではないか？
- ・ 平和利用に限定するとして、例えば米印協定をどう考えるべきか、共通理解ができていないのは倫理委員会としては無責任ではないか？ Q & Aをもっと充実したらどうか？
- ・ 政治的な問題から目をそらさず、学会はもっと発言すべきではないか？

今後もこのような意見交換をつづけていくこととした。

6．次回は1月26日（月）の13時半から学会会議室で開催することとした。